



地域および公共交通の現状

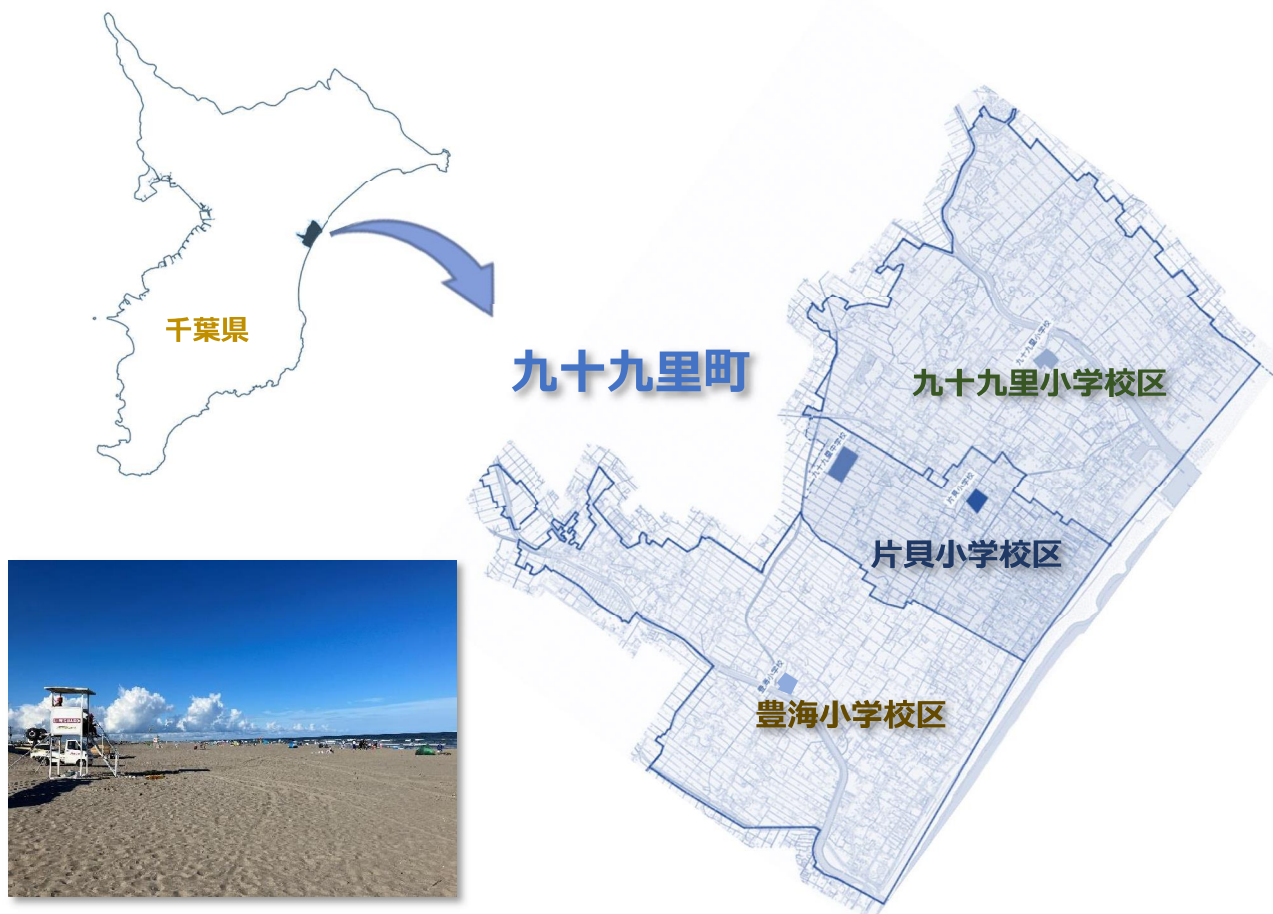


1. 地域の概況

九十九里町の地勢、人口、施設立地等に関する地域の状況は、以下のとおりです。（以下は、基礎調査期間に入手可能な情報をもとに整理したものです。）

1-1. 位置・地勢

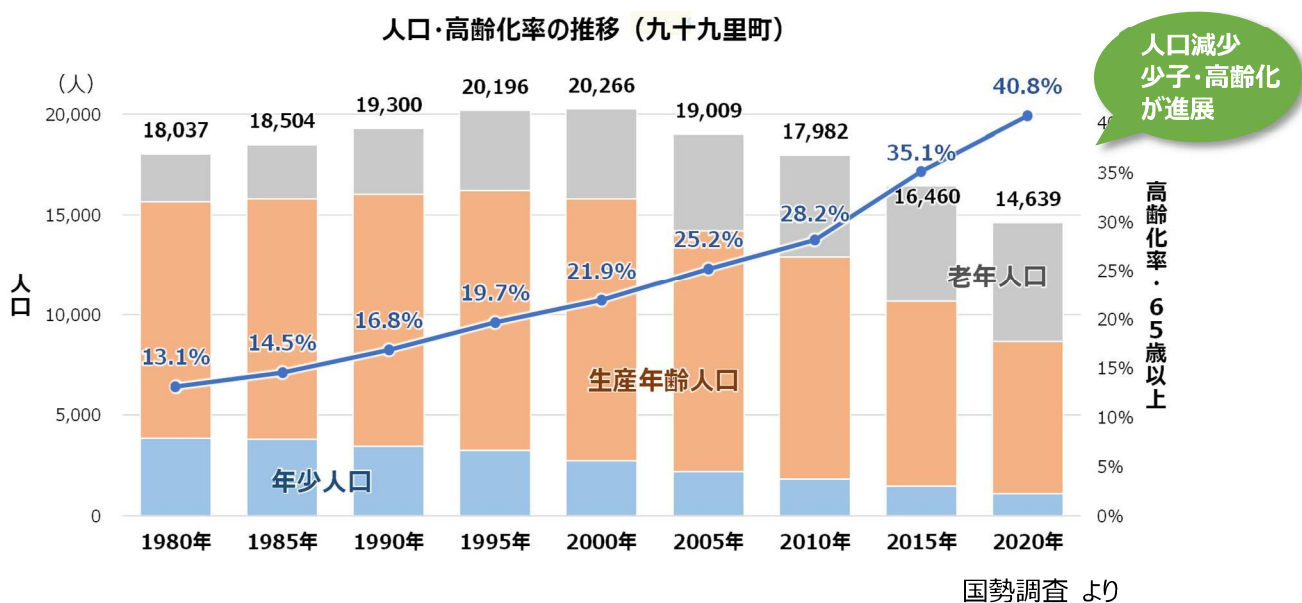
- 九十九里町は千葉県の東部、九十九里浜のほぼ中央に位置しており、北は山武市、西は東金市、南は大網白里市に接し、東は九十九里浜で太平洋に面しています。
- 東京都心から 60km 圏にあり、千葉市等の都市部や成田空港の至近に位置しています。
- 面積約 24km² のほとんどは平たんな海岸平野で、町域には約 1 万 5 千人が暮らしています。



1-2. 人口等の状況

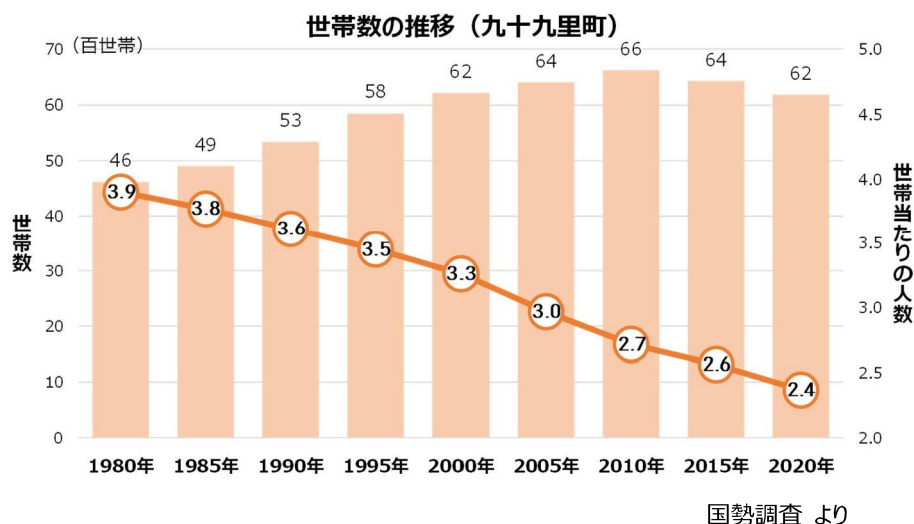
(1) 人口の推移

- 本町の人口は2000年を境に減少に転じており、現在の総人口は1万5千人以下となっています。
- また、少子・高齢化が急速に進んでおり、年少人口の減少、老年人口の増加が顕著です。高齢化率は40%を超えています。高齢化が進むことにより、外出手段の確保が今後ますます重要になるものと考えられます。



(2) 世帯数の推移

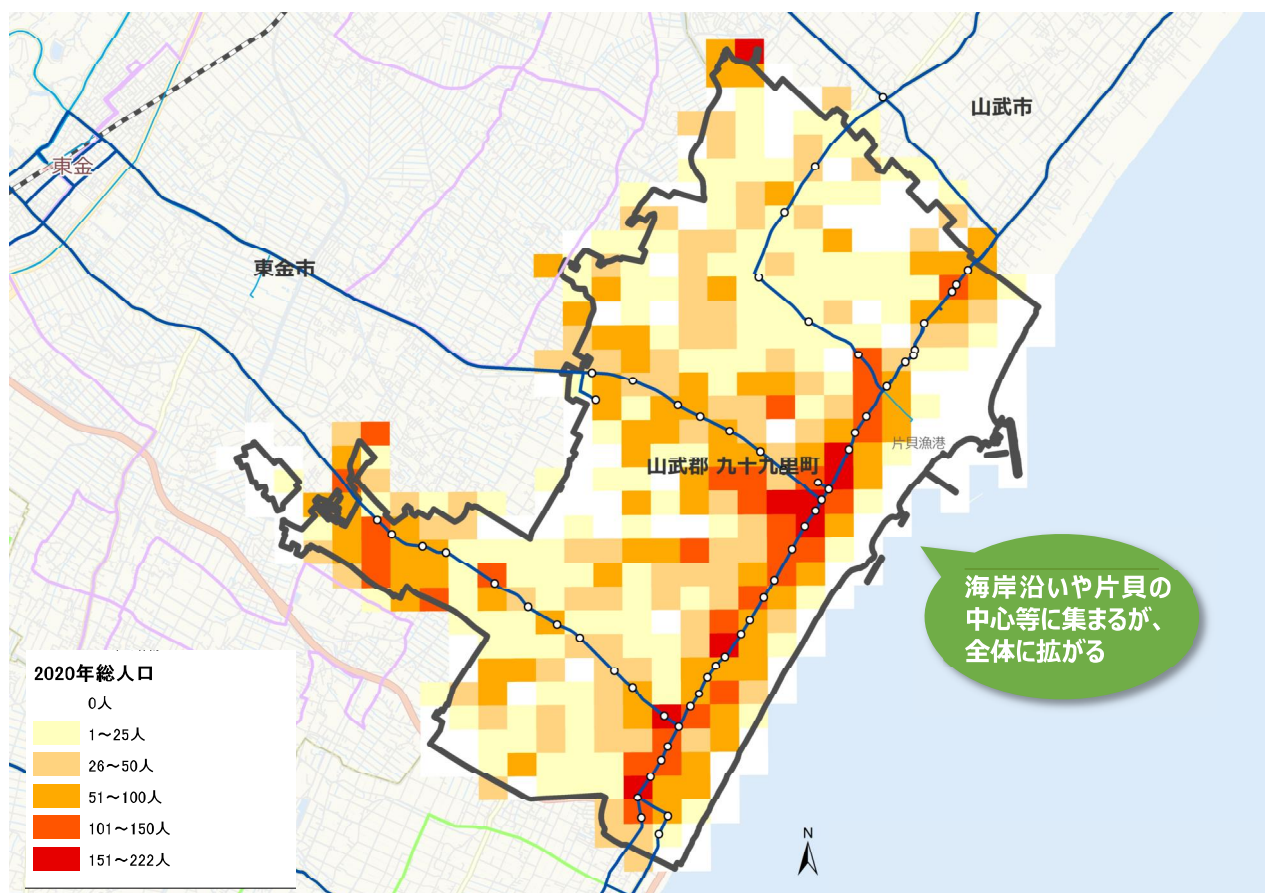
- 本町では、世帯数も減少していますがその傾向は人口より緩やかで、世帯当たりの人数が減少しています。世帯の構成が変化することで、家族や地域での助け合い等に影響する可能性があります。



(3) 人口の分布状況

1) 人口の分布

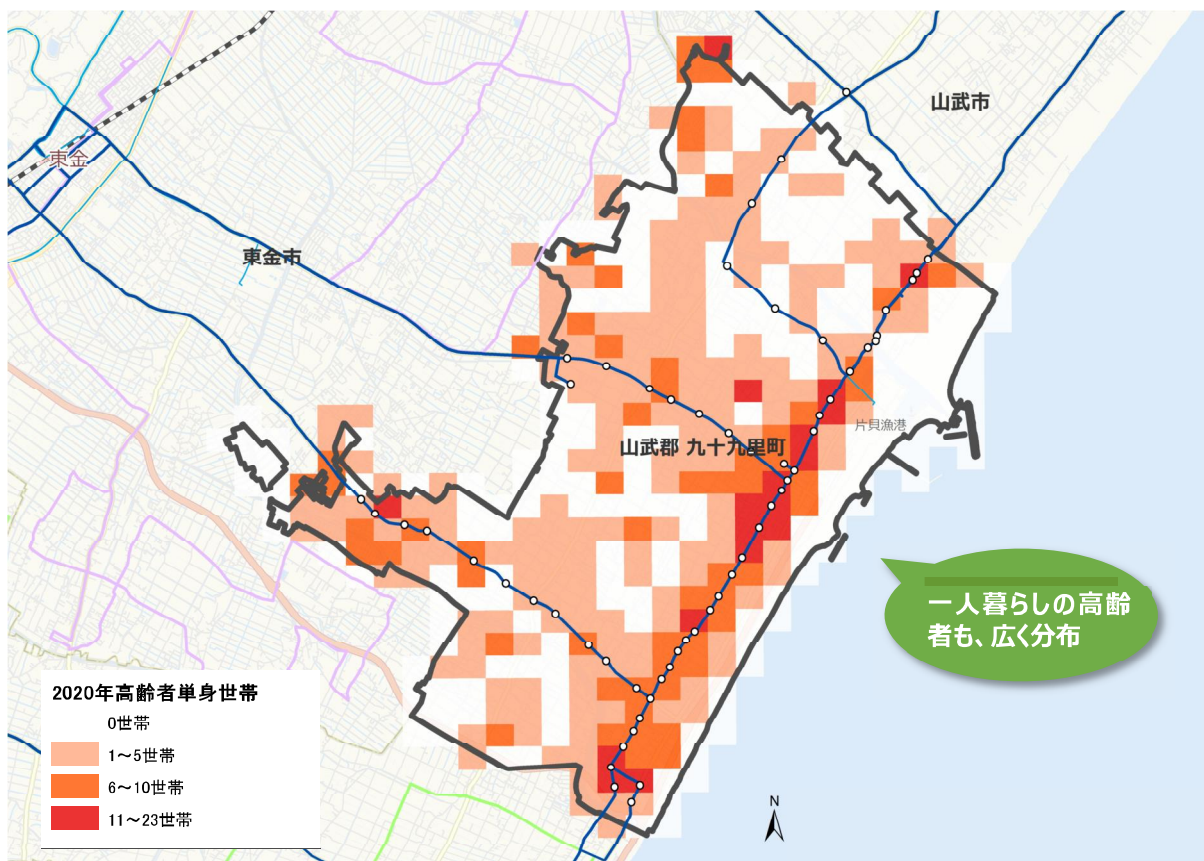
- 本町の人口は、海岸沿いの東側や、町役場、九十九里病院などが立地する片貝地域の中心等に集まっています。ただし、西側、北側の地域にも人口が分布しており、居住地が町域全体に広がっている状況です。



国土数値情報（国勢調査・令和2年）より

2) 一人暮らしの高齢者の分布

- 総人口の分布状況と同様に、一人暮らしの高齢者の人口も、海岸沿いの東側に集まる一方、町域に広く分布している状況です。

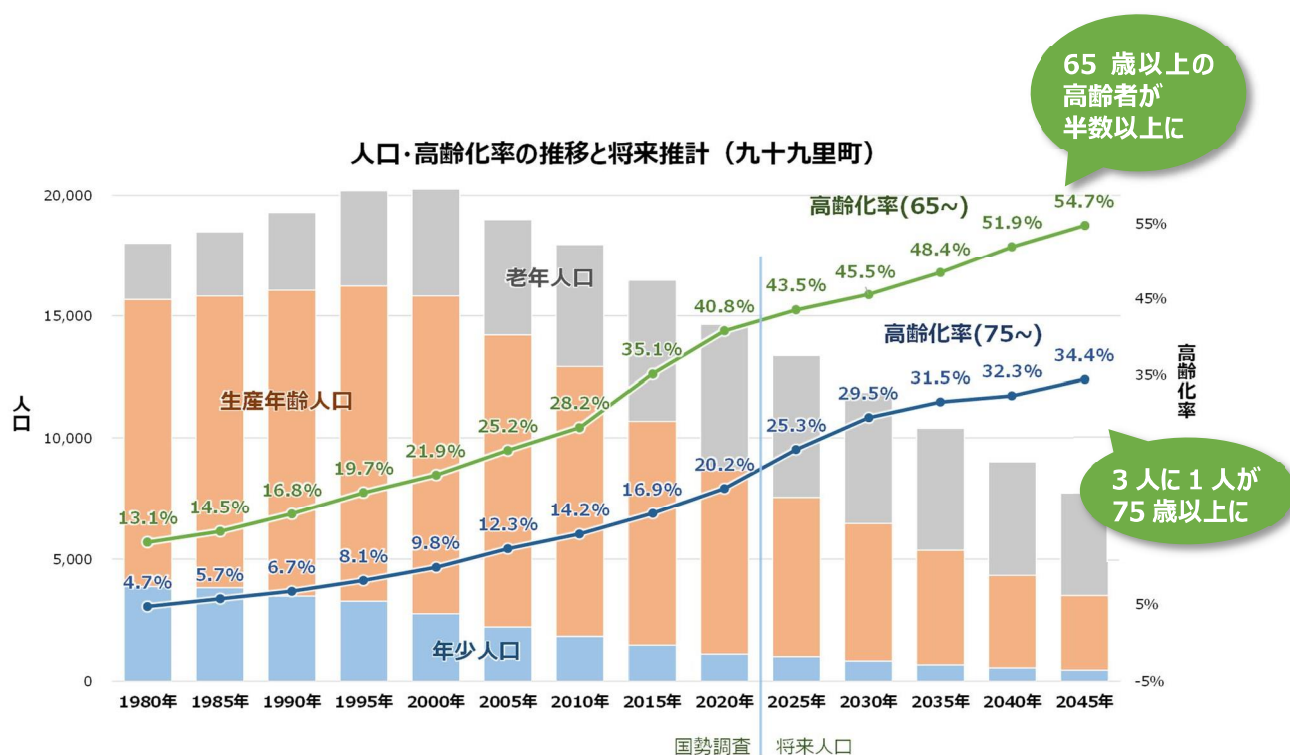


国土数値情報（国勢調査・令和2年）より

(4) 将来人口等

1) 将来人口の見通し

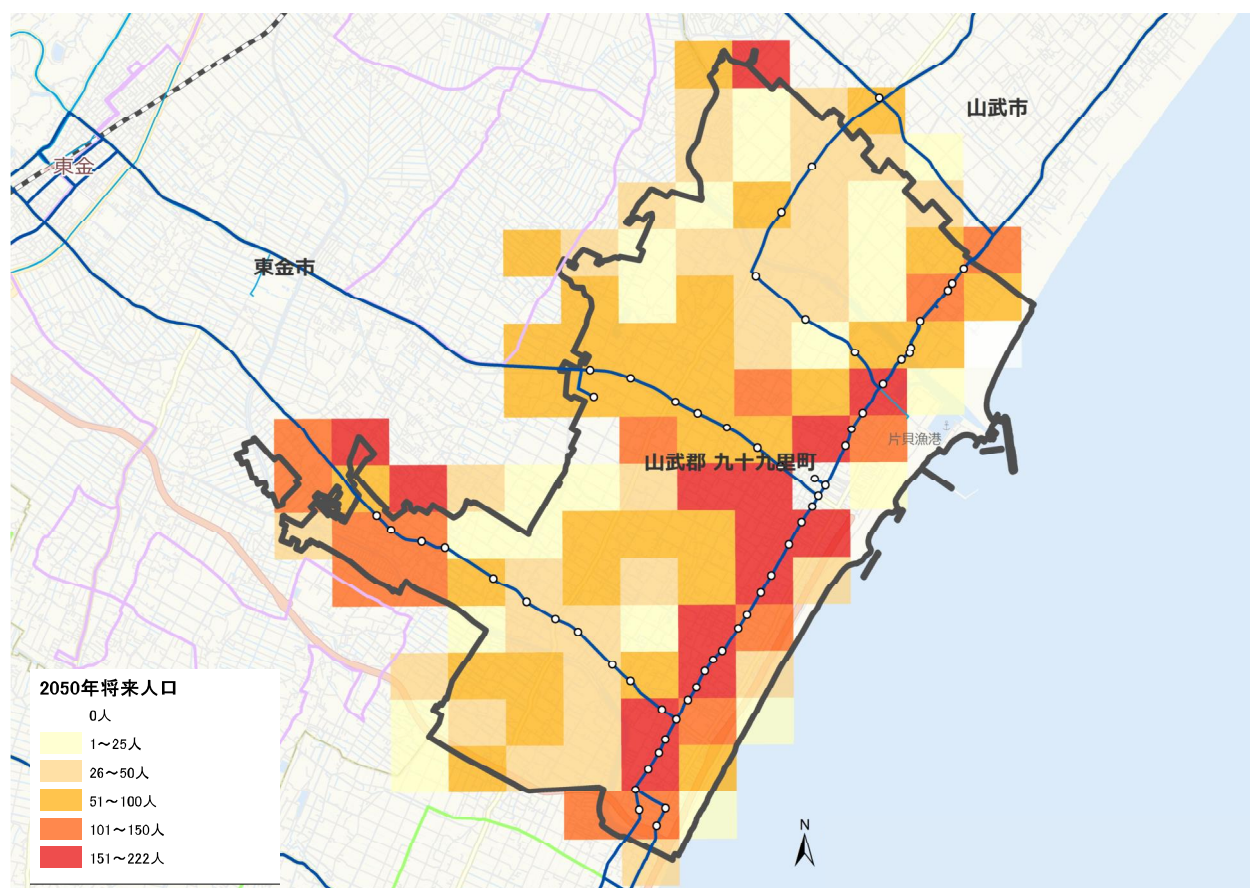
- 将来人口の推計によると、現在の傾向が続いた場合、本町の人口は今後も減少し、総人口が1万人を下まわる見通しです。
- 少子・高齢化も進み、65歳以上の高齢化率は5割を超えるものと見込まれています。また3人に1人が75歳以上となる見通しです。



国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所推計 より

2) 将来の人口分布（2050 年）

- 本町の将来の人口は全体として減少の見込みですが、人口分布の傾向は、現在同様に海岸沿いの東側の地域に人口が集まる一方、居住地が広く薄く分布する状況となる見込みです。



国立社会保障・人口問題研究所推計 より

1-3. 主な施設の立地状況

(1) 主な公共施設

- 本町の町役場、中央公民館、野球場等は、町の中心エリア（片貝）に集まって立地しています。
- 海岸沿いには複数の町営駐車場、いわし資料館（海の駅九十九里内）があります。
- 真亀川総合公園は南西部（豊海小学校区内）に、ちどりの里（介護予防拠点施設）は北東部（九十九里小学校区内）に立地しています。



国土数値情報に情報を追加して作成

(2) 主な店舗等

- 町内にはスーパー、ドラッグストアが複数立地しており、多くの町民が利用しています。
- ただし町内の店舗数は限られており、隣接する山武市や、東金市の大型店へも多くの町民が日常的な買い物に出かけています。
- これらの店舗には、いずれも広い駐車場があります。また大半の店舗の近傍にはバス停がありますが、ランドローム（本町内）の近傍にバス停はありません。



(3) 主な医療施設

- 町内の総合病院として九十九里病院があり、その他に複数の診療所が立地しています。これらの近傍にはバス路線がありますが、バス停はやや離れた場所にあります。
- 隣接する東金市の本町近傍に浅井病院があり、本町の町民も利用しています。このほか東千葉メディカルセンター（東金市）、さんむ医療センター（山武市）等が、本町から離れた場所に立地しています。



(4) 学校

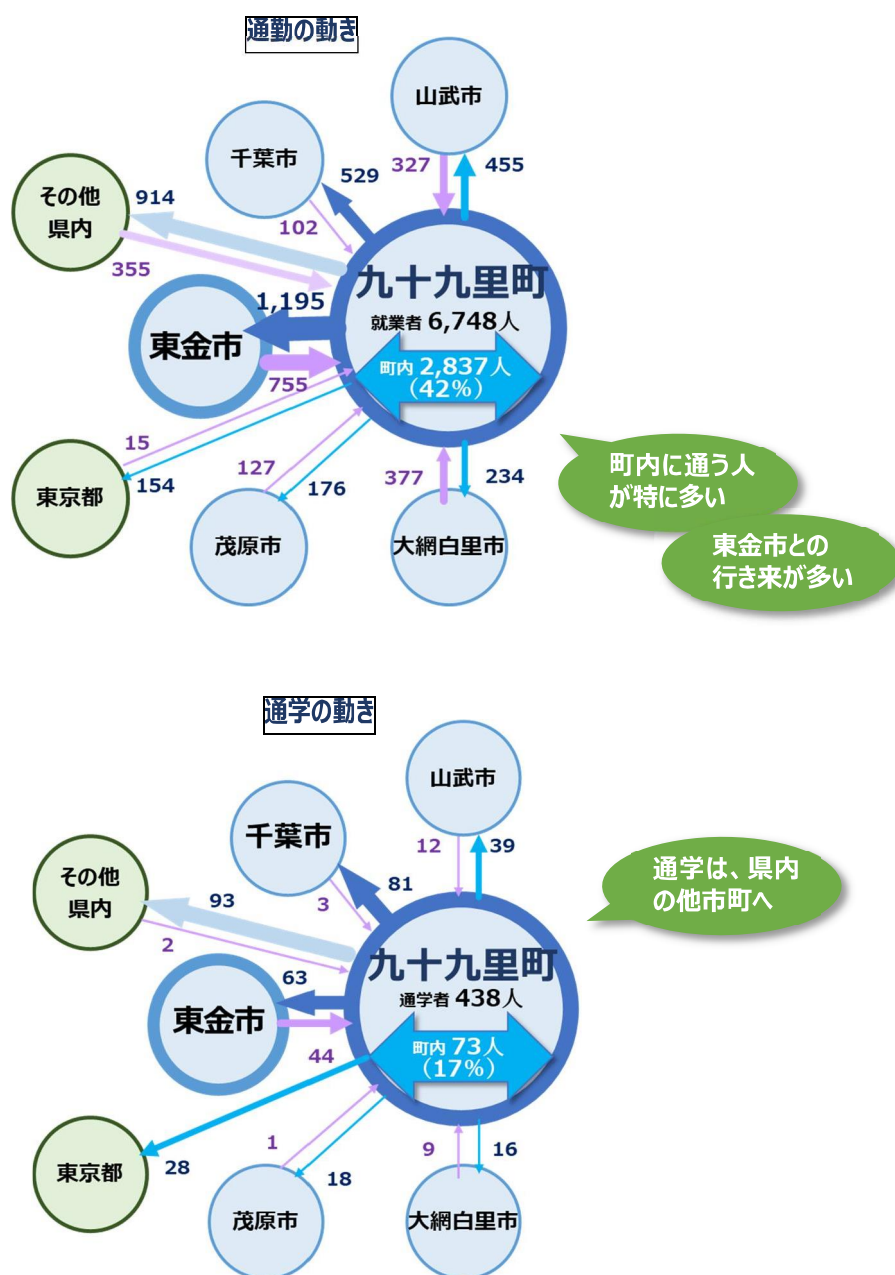
- 本町には高校、中学校が 1 校ずつあり片貝の西寄り（市町境付近）に隣接して立地しています。時間帯によって、高校に路線バスが乗り入れています。
- 小学校は、町内に 3 校あります。



1-4. 町民の外出等の状況

(1) 通勤・通学

- 通勤をする町民の約 4 割が、本町内へ通っています。町外では東金市へ通う人が特に多くなっています。
- 通学（15 歳以上）では、立地する高校が 1 校であるため町内へ通う人は 2 割弱であり、県内の他市町の学校に通う人が多くなっています。
- なお、町外から本町への通勤・通学では、東金市から通う人が比較的多くなっています。

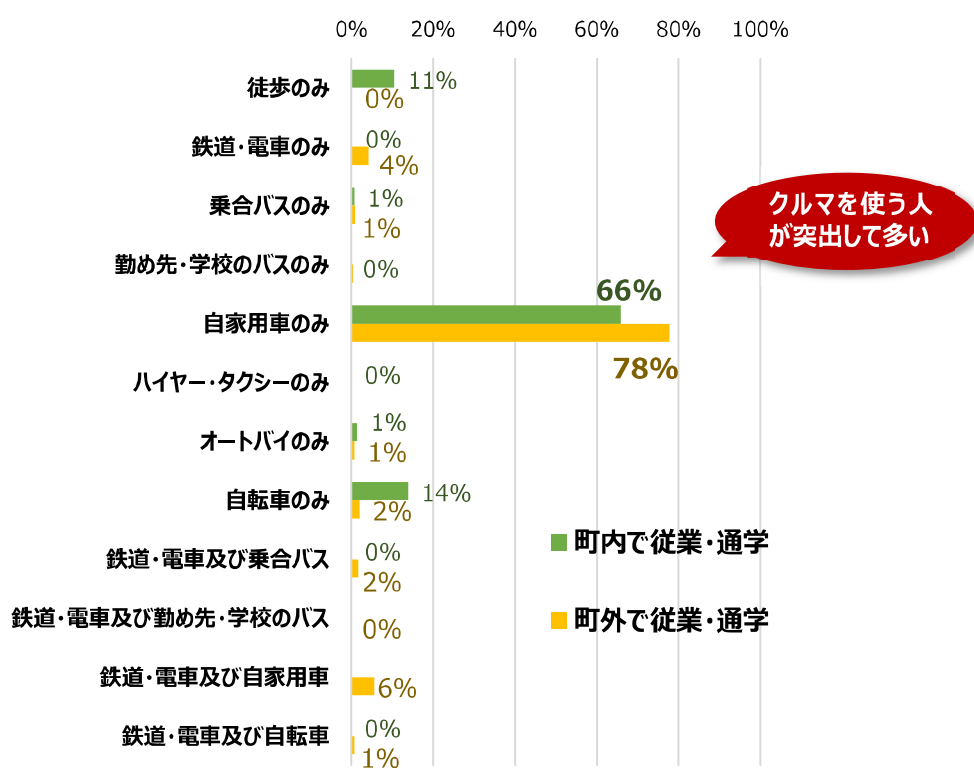


国勢調査（令和2年）より

・通勤・通学の交通手段

- 町民の通勤・通学の交通手段は、町内・町外ともクルマ（自家用車）が突出して多い状況です。
- 町内の通勤・通学では、徒歩、自転車で行く人がそれぞれ 1 割程度見られます。町外への通勤・通学では、鉄道で行く人が若干見られます。
- 町内、町外のいずれも、バスを利用して通っている町民はきわめて少ないのが現状です。

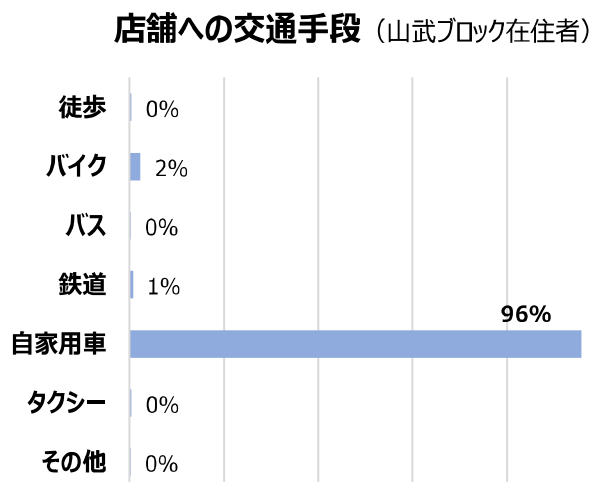
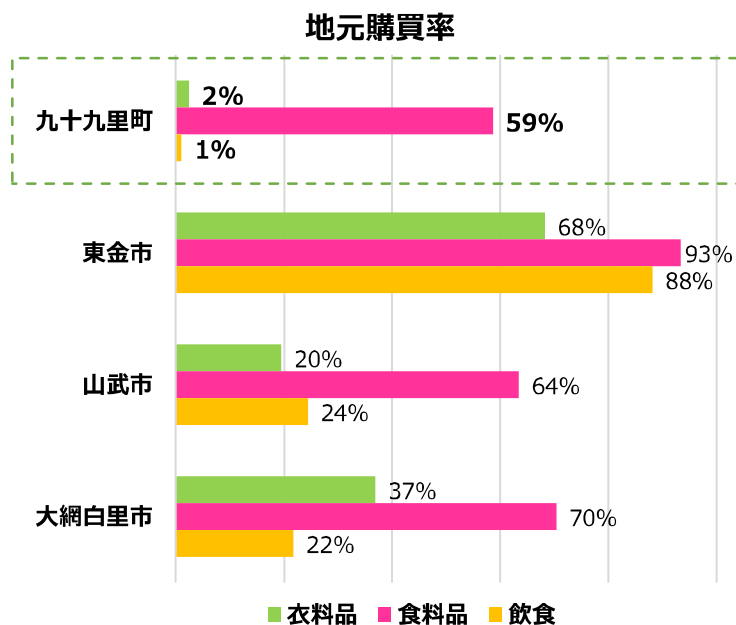
通勤・通学の利用交通手段（九十九里町民）



国勢調査（令和 2 年）より

(2) 買い物の状況

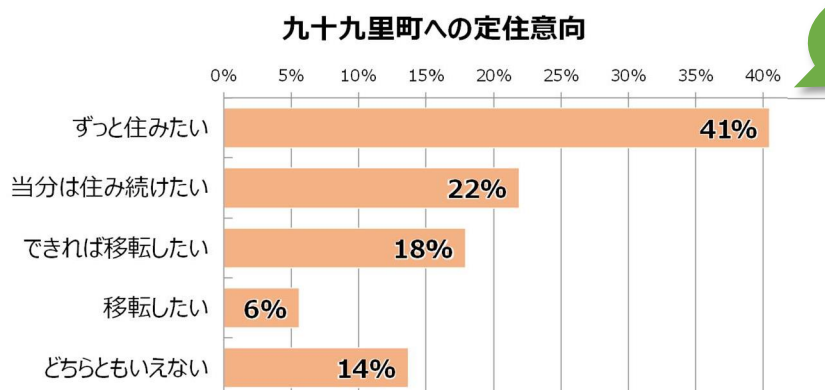
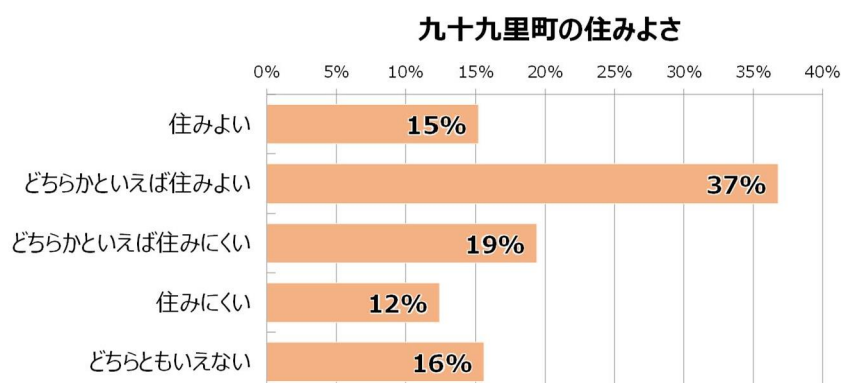
- 町民の買い物先について、食料品では町内で買い物する人が半数以上となっています。町内の店舗数が限られているため、衣料品の買い物や飲食では町外へ出かける町民が大半です。
- 山武地域に住む人の大半が、買い物に出かける際、クルマ（自家用車）を使っている状況です。



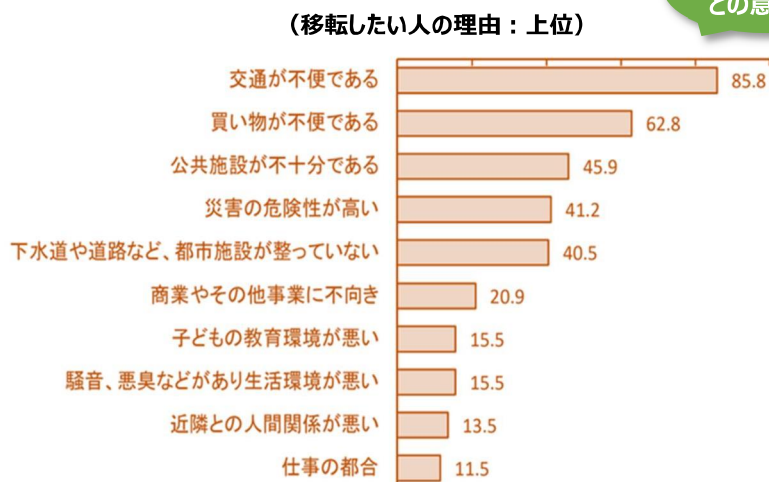
消費者購買動向調査（平成 30 年・千葉県）より

1-5. 町民の定住意向等

- 町民の意識では、本町が住みよいと感じる人が比較的多く、定住意向は高い状況です。
- 本町から移転したいという人の中では、交通が不便との理由が最も多くなっています。



町民の
定住意向は
高い



交通が不便
との意識

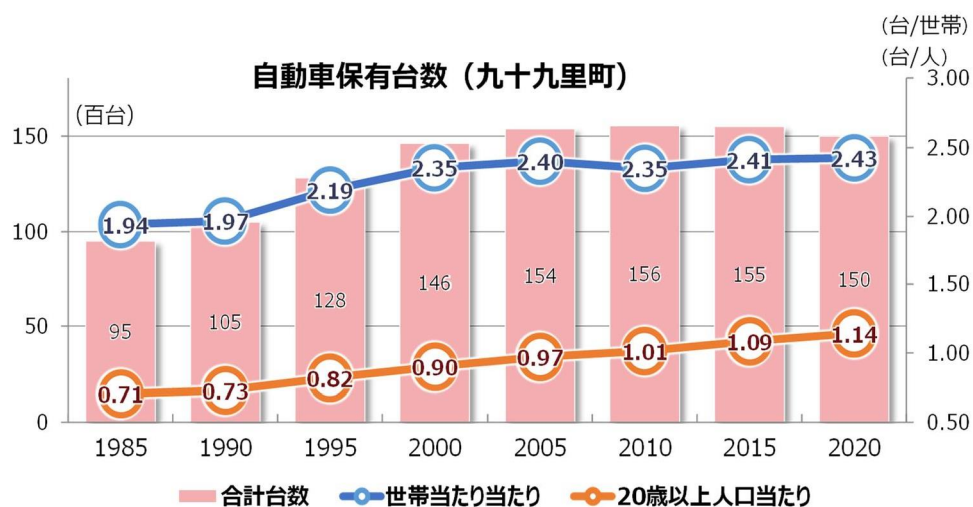
総合計画の町民アンケートより

1-6. 自動車利用の状況

(1) 自動車利用の状況

・自動車の保有台数

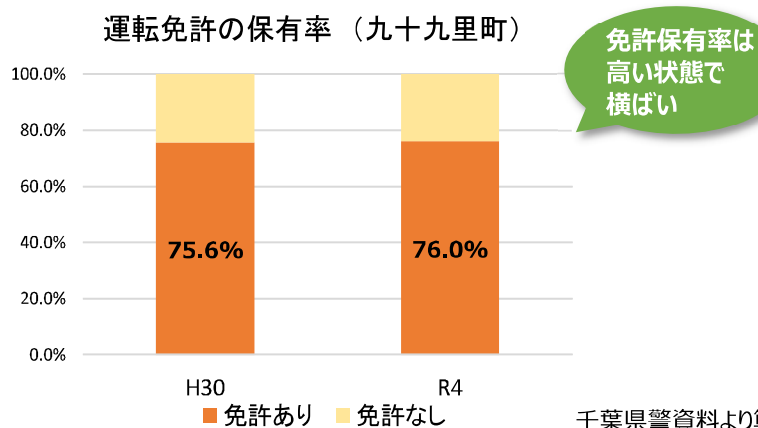
- 本町の人口は減少していますが、自動車の台数は横ばいの状況にあり、世帯当たりの台数、1人当たりの台数は増加している状況です。



千葉県統計年鑑より算出
(軽自動車を含む自動車の合計台数)

・運転免許証の保有状況

- 本町の人口に占める運転免許証保有者の割合は横ばいであり、8割近くの町民が免許を持っています。

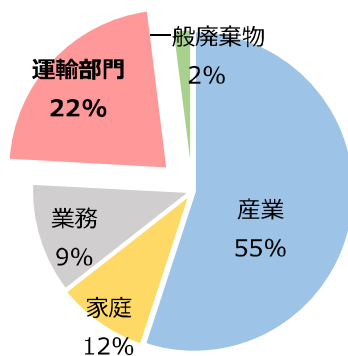


千葉県警資料より算出
(16歳以上の人口に占める割合)

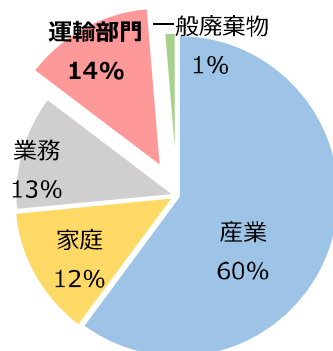
(2) 地球環境面

- 本町の CO² 排出量のうち 2 割を運輸部門が占めています（運輸部門の排出量のほとんどは、クルマ（自動車）によるものと考えられます）。本町の運輸部門による排出量の占める割合は、千葉県全体の割合よりも高い状況です。

部門別CO2排出量推計（九十九里町）



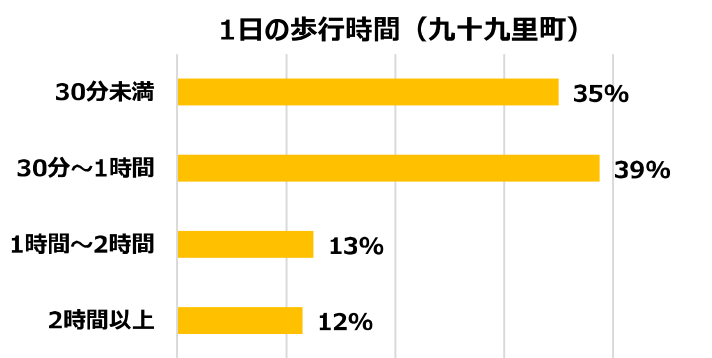
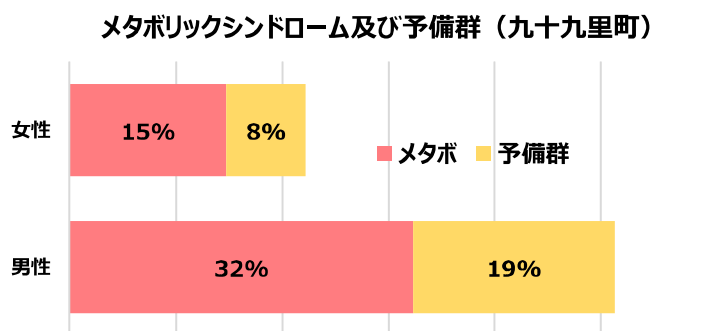
部門別CO2排出量推計（千葉県）



環境省 2020 年度都道府県別推計データより

(3) 健康面

- 町民のうちメタボリックシンドローム該当者の割合は特に男性で高い傾向にあります。日常的に歩く時間の少ない町民が多く、ドアツードアであるクルマ中心の行動スタイルが影響している可能性もあります。



九十九里町健康増進計画より

(4) まちなかの賑わい等の状況

- 本町では、ドアツードアの移動となるクルマ中心の外出スタイルが定着しており、町の中心に位置する片貝付近の道路も、クルマの通行があるのに対し歩く人はほとんど見られません。かつての九十九里鐵道の上総片貝駅はバス停になり、線路跡地は「きどうみち」として整備されています。



1-7. 観光の状況

(1) 主な観光資源

- 九十九里浜には複数の海水浴場があります。付近に「海の駅九十九里」、「サンライズ九十九里」等の施設もあり、レジャー、観光で多くの人々が来訪しています。

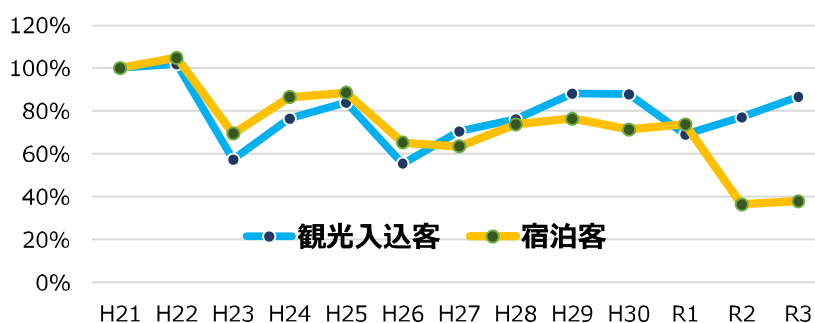


国土数値情報に情報を追加して作成

(2) 観光入込状況

- 本町の観光入込客数は変動が大きく、近年は徐々に増加していましたが、コロナ禍での落ち込みがありました。現在は観光客のうち日帰り客が多く、宿泊客は減少しています。
- なお、レジャー・観光での来訪客の多くは、クルマで来訪している状況です。

観光入込客数の推移（九十九里町）



宿泊客が減少

千葉県観光入込調査 より



観光客も、多くはクルマでの来訪

2. まちづくりの上位・関連計画等

(1) 総合計画（本町のまちづくりの最上位計画）

- 本町のまちづくりの最上位計画である「第5次九十九里町総合計画」では、“快適に暮らせる基盤づくり”の施策の一つとして「公共交通の充実」を掲げており、「公共交通の利用促進」（存続への取り組みの強化、利用環境の向上、町民への周知、意識の醸成）、「交通手段の充実」（高齢者等の交通サービス等の支援）を主な取り組みとしています。

第3章 安全・安心に快適に暮らすまちづくり

政策 1

災害に備える地域づくり

施策

- 1 防災体制の充実
- 2 地域防災力の向上
- 3 消防体制の充実

政策 2

快適に暮らせる基盤づくり

施策

- 1 道路環境の整備
- 2 公共交通の充実
- 3 情報通信基盤の整備
- 4 空き家の利活用と移住・定住の促進
- 5 地域安全の推進

〈主な取組〉

1 公共交通の利用促進

存続への取り組みの強化、利用環境の向上。町民への周知、意識の変化を促しながら、公共交通の利用促進を図る。

2 交通手段の充実

本町にあった交通弱者対策に取り組む。

政策 3

自然環境を守る地域づくり

施策

- 1 自然環境の保全
- 2 資源の循環利用の促進
- 3 環境美化の促進

(2) 関連計画等

- 本町の関連計画として、九十九里町過疎地域持続的発展計画では、総合計画を踏襲した考え方が示されています。その他、都市づくり、地球温暖化対策、健康増進、高齢者福祉、観光振興、まちの賑わい、定住・移住の促進、子育て支援等の分野においても総合計画にもとづく考え方による取り組みが行われており、公共交通が寄与できることがあると考えられます。

●九十九里町過疎地域持続的発展計画

- ・移住・定住・地域間交流の促進、人材の確保・育成
- ・産業の振興
- ・地域における情報化
- ・交通施設の整備、交通手段の確保の促進
- ・生活環境の整備
- ・子育て環境の確保、高齢者等の保健及び福祉の向上及び増進
- ・医療の確保
- ・集落の整備
- ・再生可能エネルギーの利用の推進

- ・公共交通の**利用環境の向上**と、住民への**周知**
地域公共交通に愛着を持ち、共に守るという**意識の醸成**
- ・**高齢者や障がい者、子育て世帯**が地域で生活できるよう、**交通手段の充実や支援**
- ・J R 東金線複線化促進協議会による利便性向上、交通弱者対策
- ・**九十九里町公共交通計画**の策定

●その他の関連計画

- ・九十九里町地域福祉計画
(「支え合って共に育む 心つながるまち 九十九里」の実現のため、地域福祉の推進・充実にめざす)
- ・九十九里町高齢者保健福祉計画
(高齢者が住み慣れた地域で健やかに、安心して暮らせるようにすることをめざす)
- ・九十九里町健康増進計画
(誰もが健康で心豊かに生活できるまちの実現をめざす)
- ・九十九里町地球温暖化対策実行計画
(温室効果ガス排出量の削減目標の実現に向けて様々な取り組みを行う模範となり、地球温暖化対策の推進を図る)

等

3. 公共交通の現状

3-1. 公共交通ネットワーク

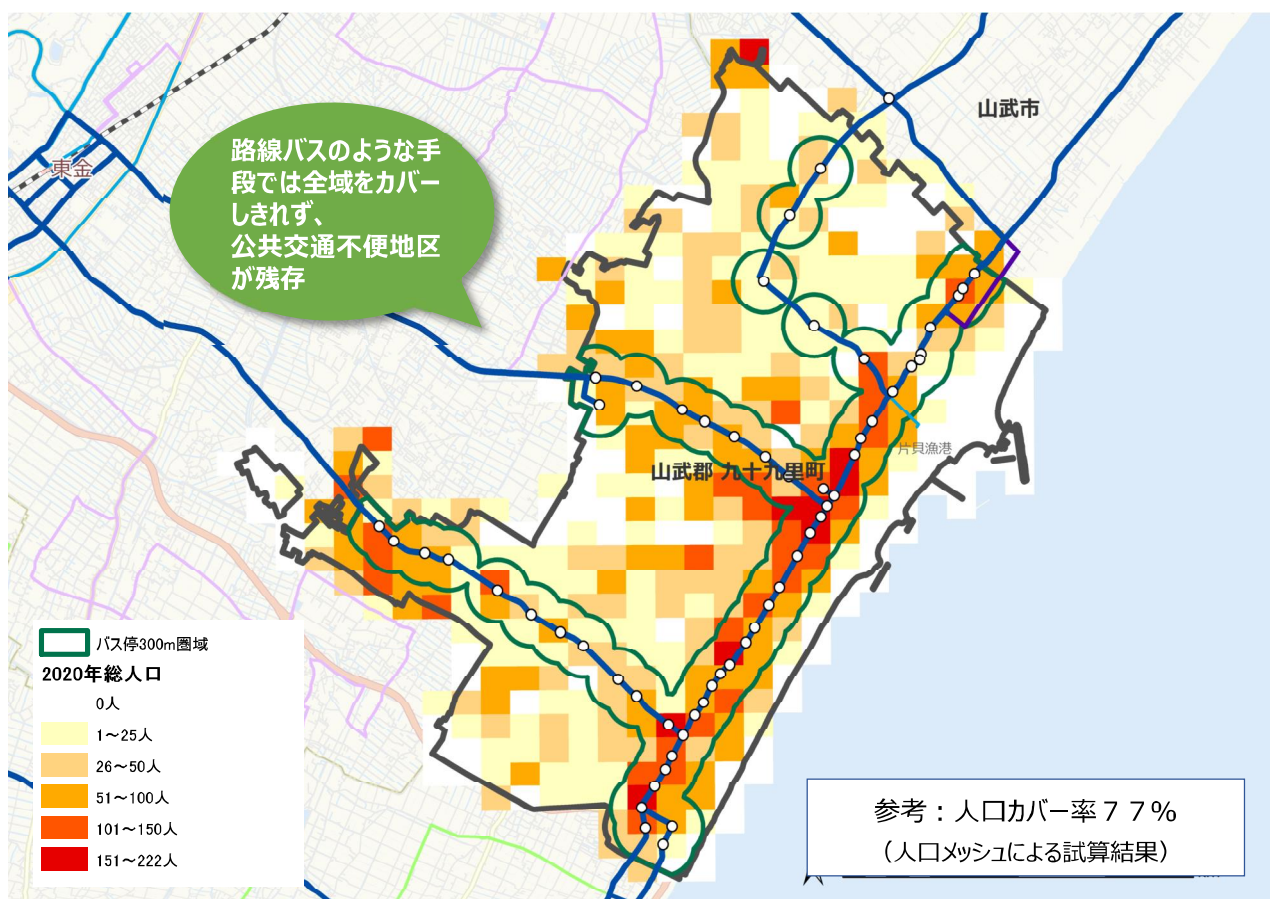
- 本町に鉄道駅はなく、路線バスが本町と東金駅、成東駅、大網駅等との間をつないでいます。
- 路線バスは、複数の事業者が運行しています。九十九里鐵道（片貝線・豊海線）は、本町と東金市方面との間を、ちばフラワーバス（海岸線）は、本町と山武市方面との間を運行しています。
- 高速バスは、白子～東京線・千葉～白子中里線（小湊鐵道）、九十九里ライナー（九十九里鐵道）があり、本町と東京駅、千葉駅方面をつないでいます。
- バス等の補完として、タクシーが運行しています。



3-2. 路線バス・高速バス

(1) バス等の利用圏域

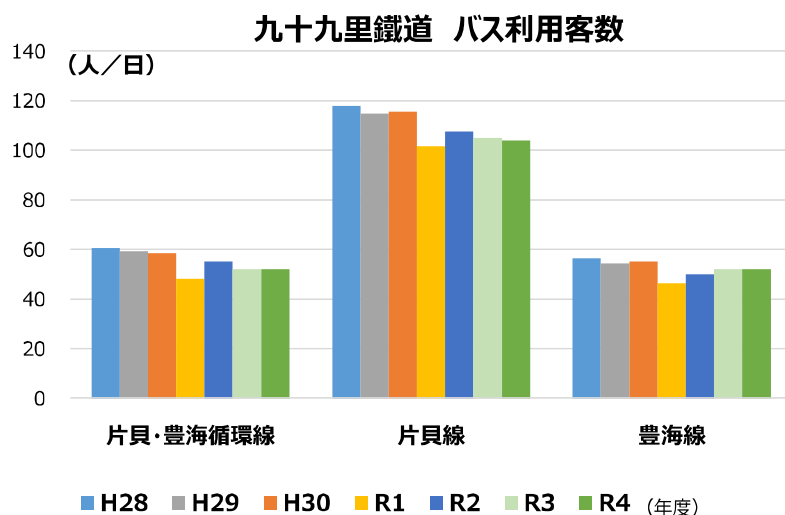
- 本町には、複数の事業者による路線バス、高速バスが運行しています。
- 町域に広く薄く広がっている居住地を、路線バスのような公共交通でカバーするには限界があり、バス停の利用圏域以外にも人口が分布している状況です。ただしバス路線は、人口の集まる地区を概ね通っており、本町全体の人口の7割以上をカバーしています。



* 人口カバー率：居住地でみて、どれぐらいの人口が、公共交通の利用圏域内にあるのかを試算した値です。

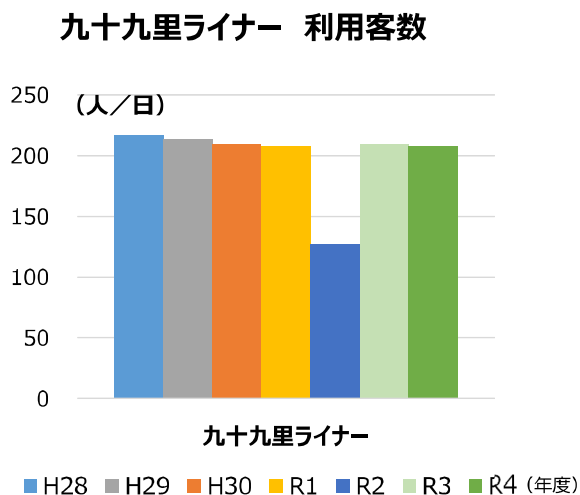
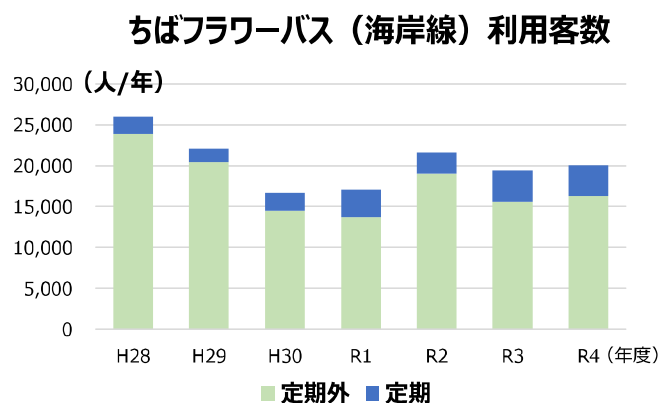
(2) 路線バス・高速バスの利用状況

- 本町を運行する路線バス、高速バスの利用客数は以前から減少傾向にありましたが、コロナ禍でさらに落ち込んでいます。特に高速バスは大きく落ち込みましたが、その後、回復傾向にあります。一方、路線バスは、コロナ禍の前と比べて減少している状況です。



バスの利用客は、
以前から減少傾向

コロナ禍で、
さらに落ち込み

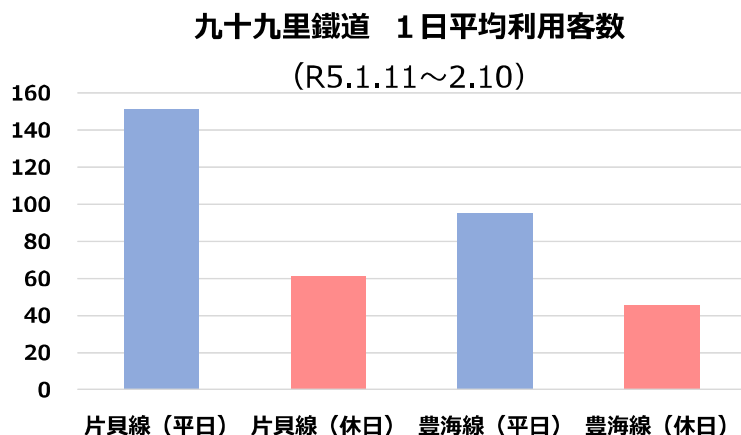


(バス事業者資料より)

(3) 路線バス・高速バスの利用状況（詳細）

・九十九里鐵道（片貝線・豊海線、九十九里ライナー）

- 九十九里鐵道の片貝線・豊海線のいずれも、平日と比べ、学校や医療機関等が休みとなる休日の利用客数が少ない傾向があります。
- 九十九里鐵道のバス定期券購入者は、大半が「東金駅」との間の区間を利用しています。



参考：九十九里鐵道のバス定期券の購入実績（九十九里町の路線：2023 年 4 月）

＊町外を含む

・購入数 34 人

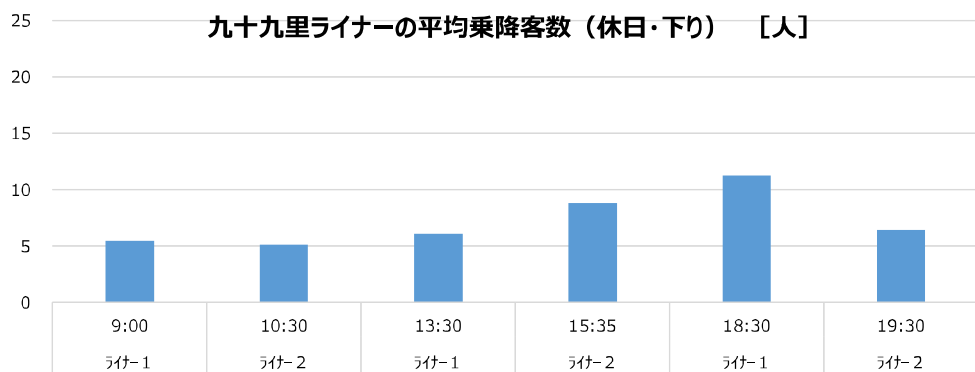
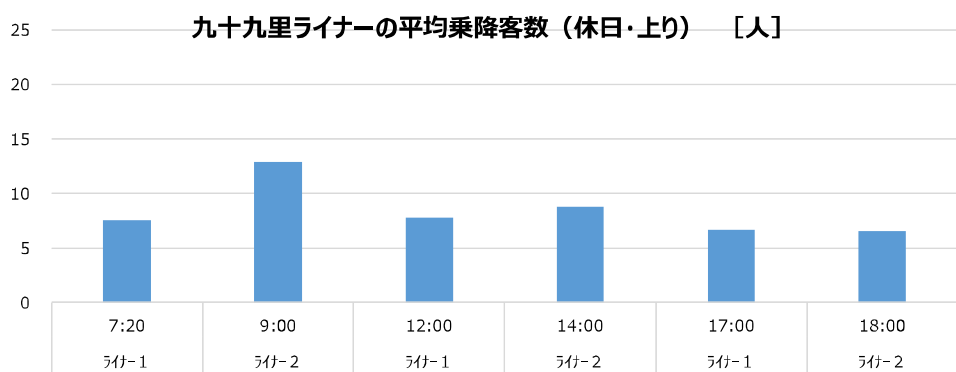
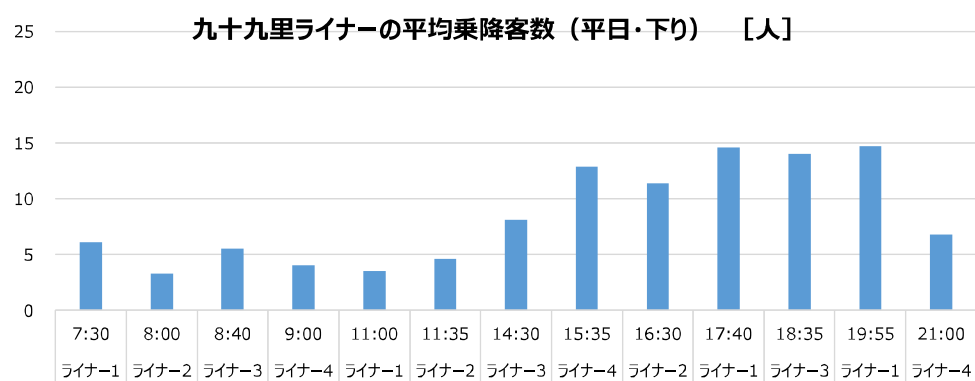
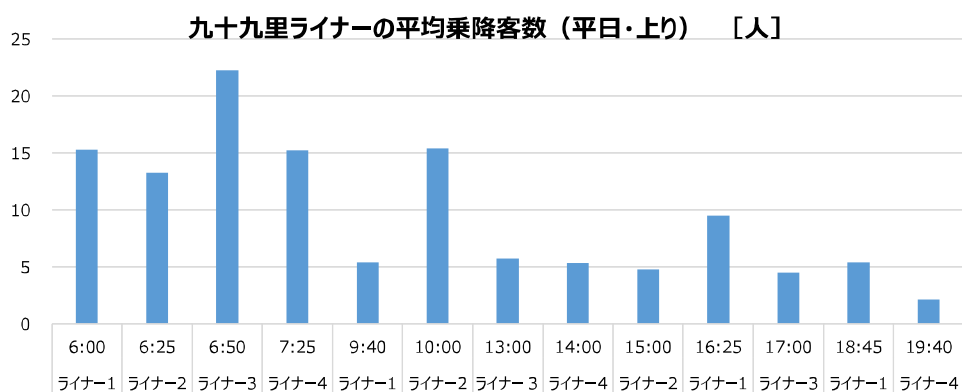
うち、定期券区間

町内から遠い側のバス停： 東金駅 29 人、千葉駅 3 人

町内側のバス停： 九十九里高校 4 人、九十九里学園 3 人、九十九里町役場 3 人
(その他は 2 人以下)

(バス事業者資料より)

- 九十九里ライナーの利用客数は、休日よりも平日の方が多くなっています。
- 平日・休日ともに上りでは朝の時間帯、下りでは夕方の時間帯で乗降客数が多くなっており、当地域の居住者の利用が多いものと考えられます。



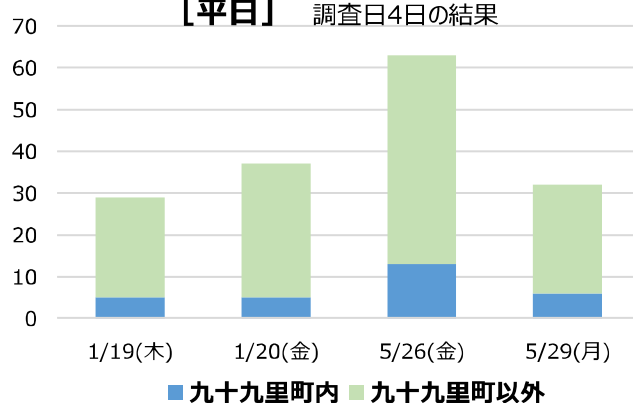
令和5年2月の実績
(バス事業者資料より)

・ちばフラワーバス（海岸線）

- ちばフラワーバス海岸線については、路線全体の乗降客数のうち、九十九里町内のバス停の乗降客が少数であり、山武市での乗降客数が多くを占めています。
- ただし休日においては、九十九里町内での乗降客数が増える傾向があります。

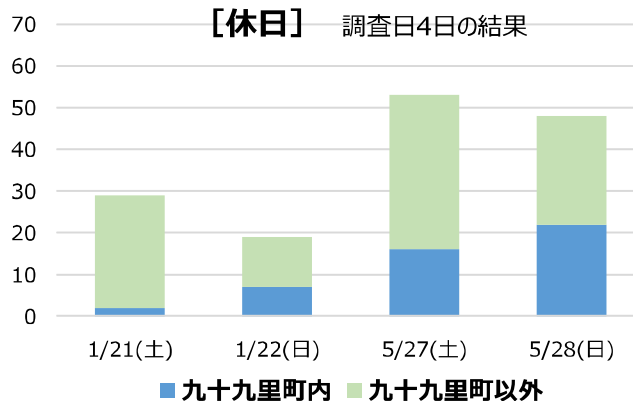
ちばフラワーバス（海岸線）乗降客数

【平日】 調査日4日の結果



ちばフラワーバス（海岸線）乗降客数

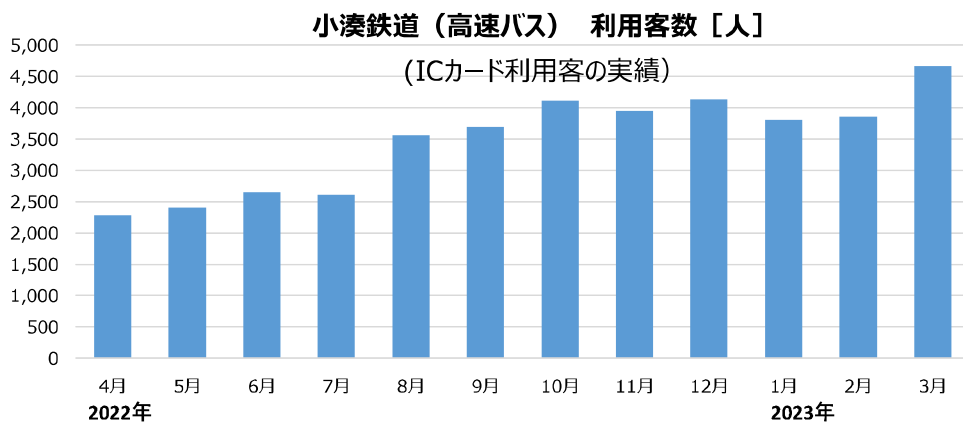
【休日】 調査日4日の結果



令和5年調査日の結果
(バス事業者資料より)

・小湊鐵道（高速バス：九十九里町経由）

- 本町に発着する小湊鐵道の高速バスの、年間の利用客数（ICカード）は約4万1千人です。そのうち約5千人がサンライズ九十九里からの乗車客です。同数の降車客がいると想定した場合、全体の4分の1（約1万人）がサンライズ九十九里の乗降客であることになります。



参考：小湊鐵道（高速バス：九十九里町経由） 2022年4月～2023年3月

- ・年間ICカード利用客数：約4万1千人
うち、サンライズ九十九里での乗車客：約5千人
(サンライズ九十九里での降車客は含まない)

(バス事業者資料より)

3-3. タクシー

(1) タクシー営業所

- 本町内には、1社のタクシー営業所が立地しており、タクシーが、路線バス等を補完する役割を担っています。



(有) 片貝タクシー

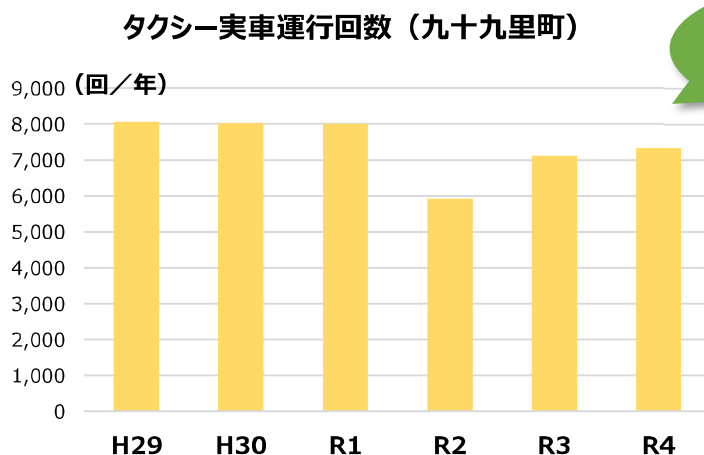
所在地：九十九里町片貝、車両台数4（普通車）

(タクシー協会資料より)

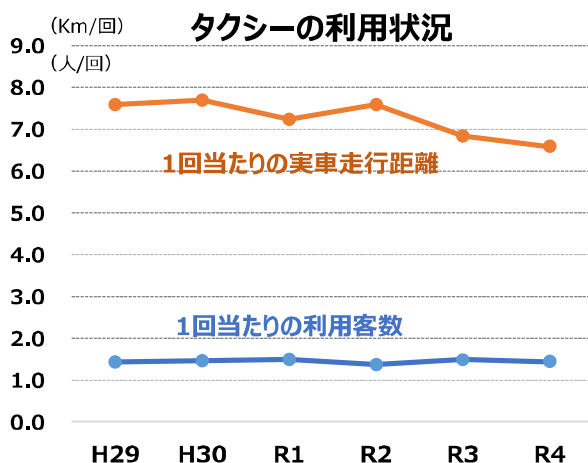
(2) タクシーの利用状況

・タクシーの利用状況

- タクシーの利用客数は横ばいの状況でしたが、コロナ禍で大きく落ち込みました。
- 実車走行 1 回当たりの利用客数は 1.5 人前後であり、1 人での利用が多いものと見受けられます。1 回当たり走行距離は、徐々に短くなる傾向にあります。



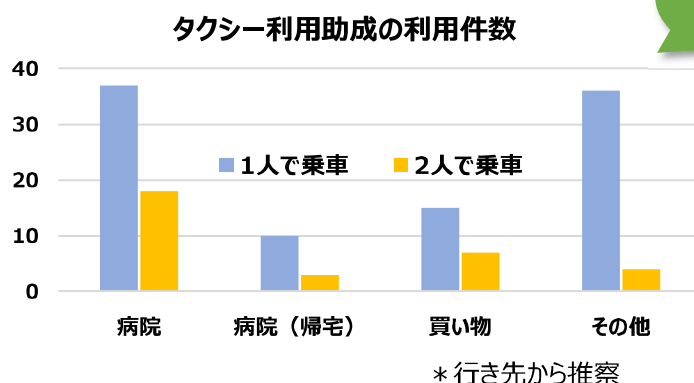
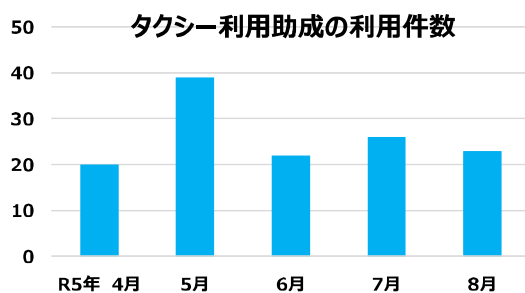
タクシーの利用客も、
コロナ禍で落ち込み



(タクシー事業者資料より)

・タクシー実証実験（タクシー利用助成）の状況

- 本町では、公共交通が存在しない地域の解消に向け、今後の検討材料とするため、「タクシー利用助成」の実証実験を行っています。（対象は、作田丘地区または真亀丘地区にお住まいの方で、75歳以上の方、及び65歳以上の方で運転免許証を自主返納した方）
- 利用時の行先をみると、病院への行き帰りでの利用が多いものと見受けられますが、買い物等での利用もあります。また、一人で乗車する人が多数となっています。



一人で利用する人が多い

（R5 年度実績より）

みほん

申請番号: 13の123

令和 3 年度

九十九郡町公共交通利用助成券

本人確認欄

氏名: 大木 直明

住所: 九十九郡町 〇〇〇〇番地

有効期限: 令和4年3月31日まで

※乗車券券者記入欄

乗車券券者	氏名	住所	利用回数
1	〇	〇	〇
2	〇	〇	〇
3	〇	〇	〇
4	〇	〇	〇